



発行所  
小名浜まちづくり  
市民会議  
TEL: 52-1275  
発行日  
令和5年9月20日

# 第68回 いわき花火大会

いわき市最大夏のイベント、第68回いわき花火大会が、8月5日にテーマ「彩（いろどり）〜新しい未来へ〜」のもと、小名浜港1・2号埠頭アクアマリンパークで盛大に開催されました。昨年の縮小開催を経て、コロナ禍の影響を乗り越え、4年ぶりの通常開催となり、夜空にきらめく美しい花火が地元で喜びと感動を与えました。



写真提供：蛭田 眞志

## おなはま海遊祭

おなはま海遊祭は7月29日・30日に4年ぶりに開催されました。海上ではジェットスキーやキッズボート、バナナボートの体験乗船、海上保



安部の巡視船の一般公開が行われ、子供たちだけではなく大人にも好評で2日間とも大盛況でした。ジェットスキーでは海外でも活躍している選手達による水上アクロバットショーも行われました。バナナボートでは乗っている人が海に落ちてしまうシーンもあり、盛り上がりを見せていました。体験乗船ではライフジャケットを装着し、安全にも配慮して運航されていました。

陸上では、約20台のキツチンカーや警察車両・消防車両の体験乗車、自衛隊車両の展示や制服試着ブースもあり、家族連れが写真を撮る場面が多く見られました。また、自衛隊の演奏会な

## いわきおどり 小名浜大会

8月4日にいわきおどり小名浜大会が4年ぶりに開催されました。オープニングでは、小名浜海星高校音楽部の生徒たちが美しい音色を奏でていました。他にも園児の踊りや高校生のフラダンスでも魅了されました。会場となった鹿島街道には48団体・約1800人が「どん



わっせー」の掛け声に合わせ踊りの輪を広げていました。会場は開催を待ち望んでいた市民の皆さんで活気に満ち溢れ、やっぱり、小名浜の夏はこうありたいな、と思うひと時でした。

## 全体会議8月

# いわき市の公共交通のり方

8月29日、まちづくりステーション小名浜で全体会議が開催されました。今回は、「いわき市の公共交通について」いわき市都市計画課・総合交通対策担当・志賀順一氏にご講話いただきました。

まず、いわき市の40年後は、人口が約半数になり高齢化率も約50%になるという数字に驚きました。さらに現在のいわき市は、自家用車分担率約77%と全国の中核市の中で最も高い状況です。確かに、自宅から行きたい場所への移動は自家用車が便利です。しかし、現状のままでは40年後、高齢化社会により自家用車の利用が困難な状況になってくると考えられます。

これからは、公共交通機関の充実が課題になってきます。その中の一つの案として、現路線を活用しての旅客化利用があげられます。講話後のワークシヨップにはメリットとして、小名浜への観光客の誘致が出来る、町がにぎわう、生活向上につながるなど、様々な意見が交わされました。今回、小名浜→泉間の貨物列車からの眺めをVTRで見せて頂き、住宅街などの生活風景や緑もある清々しい風景、季節の花が咲き誇り、車窓からたくさん乗客の目を楽しませる風景が想像できました。



小野晋平翁 没後80年 特別企画②

# 築港の先人…小野晋平と賢司…

小野 浩

令和の時代、小名浜港は「石炭を輸入」する役割を担っている。明治時代・大正時代・昭和時代には、いわき(特に常磐・内郷・好間・勿来地区)は炭鉱業が地域基幹産業であり、汽船・汽車・工場の動力源として主に京浜地区に「石炭を輸送」していた。

常磐炭が注目されたのは、明治10年(1877)の西南戦争以降で、明治12年地元豪商らによる磐城丸回漕会社が海上輸送を始めた。西洋型帆船「磐城丸2隻」を、

磐城(中の作・小名浜)東京間で定期航海(月1回、3、9月を除く)をした。石炭も扱ったが60屯の小型船であり、海難事故もあり明治16年には同会社は無くなった。

明治20年(1887)以



▲石炭棧橋 明治20年代(漁港区の東側)

前の様子…小名浜の沖合には千石積と称する帆船や蒸気船(500屯〜4500屯)などが停泊し、岸壁がなかったため、これらの船への石炭積みは舢艀によつた。「屈強な男の50人一団が交代で1俵ずつを肩に担ぎ、海中に乳下までつかりながら舢艀にのせ、それが100俵になると本船に積換えた。本船の積載は5、6千俵。」炭鉱から港までは馬により運ばれていた。

明治20年、大手の磐城炭硯社(のちの磐城炭硯・常磐炭硯)は、山元の小野田から関船・水野谷・下船尾・野田・住吉・大原・岡小名・米野まで12キロメートルの馬車鉄道を敷設し、さらに沖に向かって石炭棧橋(80メートル)をつくった。ここから舢艀に積み本船に向かわせたのだ。

しかし、海上輸送は気象に左右され、小名浜湾内や東京までの航海中(特に鹿島灘)に沈没する船も少なくなかった。

明治30年、石炭の安定輸送を目的に、日本鉄道磐城線(現常磐線)が開通する。これにより、小名浜は衰退の道をたどる。石炭取り扱いは、開通前14万トンが開通後は4万、2万トンと大

激減した。

大正時代に入ると鉄道運賃が値上がり、船賃との差が無くなった。また、船舶の大型化により安定輸送が確保された。

昭和2年(1927)、小名浜港は、第2種重要港湾指定をうける。常磐炭田の石炭の積出し(海上輸送)と化学工場の誘致事業が認められたのだ。「商港小名浜」が動き出した。その時小野晋平は、その中心人物だった。



▲小名浜海岸 明治後期～大正初め

## お目見ってなぐに?

十五夜とも言い、旧暦の8月15日とされています。が、年によって十五夜の日には変わります(今年9月29日)。また、別名「中秋の名月」とも呼ばれ、秋の真ん中に出る月という意味があります。十五夜のお月見が広まったのは平安時代であり、当時の貴族たち

## 海神ネプチューン大学2023

海のプラごみについて考え、行動する、体験イベント

去る8月26日に第3回海神ネプチューン大学2023前期を実施しました。今回はいわき市リサイクルプラザクリンピーの家の見学とプラごみアクセサリーの製作を行いました。クリンピーの家では市内のプラスチックごみやカンなどのリサイクルを行っていただきます。今回で前期の活動は終わりになり、参加したお子さんには卒業メダルを授与しました。



▶校長からメダルを渡される参加者



は、月を眺めながらお酒を飲んだり、船の上で詩歌や管弦を楽しんだそうです。お月見は、三月見(さんつきみ)とも言われ、十五夜の他に十三夜と十日夜もあります。お供え物はススキ・月見団子・農作物(芋類)で、それぞれに意味があり、魔除け・感謝・豊作を祝うなどの意味があります。

## マイメイドのささやき

今年の夏は、とても暑かったですね。久しぶりに海にいったら、海水温が高くて泳ぐとき息苦しかったなあ。なんでも、今は地球温暖化ではなく地球沸騰化なんですって。来年も暑いでしょうから、なんかしら対策を考えないと。

笑 M・O

## 小名浜まちづくり市民会議とは…

小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

## 会員募集

小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんと一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか?

年会費 個人会員：3000円 企業会員：30,000円 団体会員：12,000円

お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1 (まちづくりステーション小名浜)

TEL：52-1275 FAX：52-1415

http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp

随時FBに活動状況をアップしています。見つけたらぜひ、いいね！してください。



©小名浜まちづくり市民会議/福島ガイナックス